

平成 27 年度 第 3 回十和田市総合戦略会議（議事要旨）

日 時：平成 27 年 10 月 7 日（水）10:00～11:55

場 所：十和田市役所 本館 議会会議室

出席者：佐賀委員、佐々木委員、畑中委員、平野委員、田中委員、菅委員、中澤委員、三上委員、西館委員、関川委員、山端委員、石倉委員、福土委員、小田委員、櫻田委員（欠席：沼岡委員、丸井委員、稲本委員、木立委員、小坂委員）

オブザーバー：青森県上北地域県民局地域支援室 畑内室長

事務局：企画財政部 苫米地部長

政策財政課 中野課長、漆館補佐、蛭名係長、鳥谷係長、三浦主査

【開会】

【委員長挨拶】

本日、十和田市総合戦略会議を招集いたしましたところ、委員の皆様には、大変ご多忙のところご出席いただきまして誠にありがとうございます。

さて、本日は、十和田市の人口減少対策に係る施策の提案アイデア等について事務局から説明がありますので、委員の皆様から忌憚のないご意見いただきながら進めて参りたいと考えております。ご協力の程よろしくお願いいたします。簡単ではありますが挨拶とさせていただきます。

【事務局から案件（1）人口減少対策に係る施策の提案アイデア等について説明（資料 1・2）】

（省略）

【質疑応答】

（委員）十和田市が目指すべき設定がなされていないと解釈しています。今回のキーワードは人口減少と出生率の低下であり、人口と出生率という目標設定がされていないので、設定することを提案したのですが。

（事務局）目標設定の必要性は認識しております。自然減対策については、国が目標にしている出生率 2.07 を目標に考えています。社会減対策については、十和田市を魅力に感じて、住んでもらうにはどのようにすればいいのか、現在、皆様から政策のアイデアを募集するなどを経て、戦略を作っていきます。

（委員）時間軸がないと思います。目標設定するのであれば、いつまでに何をすることが必要だと考えます。

- (事務局) 人口ビジョンにおいては、最終目標は2060年までとなっておりますが、5年後10年後20年後と目標設定することを考えています。
- (委員) 介護保険における住所地特例の適用人数は把握しているのでしょうか。
- (事務局) 現在、把握しておりませんので、後日お示しいたします。
- (委員) 移住・定住グループ資料の中に、十和田市の強みとして、「中央病院、小児科など子供の医療環境が充実」とありますが、私自身はそのようには思わないので、何か証明する資料などはありますか。
- (事務局) 中央病院は、医師が1名で分娩には対応しておらず、婦人科のみとなっております。小児科については、医師が2名で小児科を開設しております。また、中央病院以外にも複数の民間の病院が小児科を開設しており、上十三地域においては、充実しているという認識です。中央病院が分娩に対応していないため、対策として通院費助成などを行っておりますが、十分とはいえないという認識はあります。
- (委員) 少子化対策グループにおいても、出産問題の研究やアイデアを期待しておりました。
- (事務局) 産婦人科医の確保については、議会での質問にも上がりますが、中央病院としても医師の確保に取り組んでおります。
- (委員) 十和田市の大問題として明らかにした方が良いと思います。
- (事務局) 産婦人科医の確保については努力しておりますが、総合戦略として掲載することは難しいと判断しました。
- (委員) ワーキンググループでのアイデアに、十和田市役所の課長や部長の方々の知見が加われば、さらに実効性のあるアイデアになると思います。
- (事務局) 市民からのアイデア、ワーキンググループからのアイデア、市当局のアイデアについて、庁内会議などを経て、総合戦略掲載事業を絞り込んでいきたいと思っております。
- (委員) 市民アイデアについては、ワーキンググループによる検討があったのでしょうか。
- (事務局) ワーキンググループでは、自由な発想によるアイデアを提案してもらうために、市民アイデアについては、検討はしておりません。
- (委員) 雇用創出グループの提案では、観光客の推移や客層についての検討が必要だったと感じます。また、移住・定住グループの提案では、畜産農家の募集期間はどのくらいにするのかといった検討が必要だと感じました。
- (事務局) 現段階では、アイデア提案ですので、総合戦略の掲載事業になった際には、より具体的な検討をしていきます。
- (委員) 少子化対策グループの提案において、街コンがカップルの成立にどれほど有効なのか疑問に感じました。また、既存の取組みを拡充するものはあるのでは

- すが、十和田市ならではの提案がないのが気になりました。地域づくりグループの提案では、町内会というのは60代以上の方々が活躍しているのがほとんどで、現役世代が町内会で活躍してもらう仕組みが必要だと感じました。
- (ワーキングメンバー) 街コンでの出会いやすさについて、民間団体からの聞き取りの際に、全員がカップルになるわけではありませんが、「また参加したい」「いい思い出になった」「十和田市に住みたい」と思ってもらうことにも重きを置いているとのこと。十和田市ならではの提案については、様々な市町村で出会い・結婚を支援する取組みをしていますが、プライベートな部分も多く、手を付けづらい点があります。ただし、男女が共同で取組む体験があったほうが良いなどのアドバイスを取り入れ、提案しました。町内会については、60代以上に限らず、たくさんの世代に参加してもらうことが念頭にありますが、生涯現役というテーマとセットで考えていたため、このような提案になりました。また、働き世代と退職世代を比較すると、退職世代が増えていること。「生活と暮らしの調査」による「退職後に働いている人」の割合が約17%、「退職後に働いていない人」が約56%という結果から、後者が日常生活で地域に貢献できるのではといった観点から、提案をいたしました。
- (委員) 畜産業の強みを活かしたUターン希望者の移住促進についてですが、夏場は作業があまりないことが課題ではないでしょうか。
- (ワーキングメンバー) 妊娠が近い牛や出産直後の牛は畜舎で面倒を見るため、夏場でもすべての牛が放牧に出されるわけではありません。また、冬季に受精を繰り返すケースであればいいのですが、例えば発情期を見逃すといった理由などで、時期がずれてしまった場合は、夏場の人工授精と出産ということになります。
- (委員) 頭数が増えて、戸数が減少しているというのは、大規模化しているということでしょうか。
- (ワーキングメンバー) 法人や大規模にやっている個人は頭数が増えています。また、使用頭数が10頭未満の個人農家は減少しています。
- (委員) 大規模にやった方が生計が立つのですか。
- (ワーキングメンバー) 専業でやるには、母牛で30頭以上が最低限必要だと思います。
- (委員) 高齢者移住について、電車がなくなった十和田市においては移動手段が充実しているのか疑問です。また、若い人に送迎してもらう方が多いため、病院の診療時間を早めているという話を病院関係者から聞いたことがあります。運転できる方はいいでしょうけど、運転できない方の移動手段について、提案にはなかったので必要だと思います。
- (事務局) 現段階では、アイデア提案ですので、総合戦略の掲載事業になった際には、より具体的な検討をしていきます。
- (委員) 先だっては、皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

バラゼミの考え方は、第1ステージから第3ステージまでありまして、第1ステージでは「食べてみたい」ということで、B-1グランプリでのゴールドグランプリ受賞を目指してやってきまして、達成できました。第2ステージでは「訪れてみたい」ということで、先だって開催されたB-1グランプリには全国からたくさんの方々に来ていただき、特に子供たちの魅力を体感していただけたのではないかと思います。第3ステージの「住んでみたい」について、歩を進めようとしています。魅力がないまちには人は来ないので、例えば、観光地として大きなコンセプトを作って、そこに枝葉をつけて色々な展開をしていけるのではないかと思います。住んでみたいまちにするには、どうするかということですね。皆様がB-1グランプリに来ていただいたかはわかりませんが、何を感じたのか。あの場で感動を受けた方は、住民として何をしていかなければいけないのかを今一度考えながら、やはり軸をきちんと見据えながら、枝葉となるアイデアを伸ばせばいいと思います。バラゼミは第3ステージに向かっていこうと思っておりますが、それには雇用の創出が絶対必要で、畜産の話が出ましたが、知識がない中で発言しますが、養豚場の建設に反対が出ている中で、畜産はこのまちでやりやすい環境なのかと単純に思います。放牧にしても、放牧牛は美味しいのかなと思ったりもします。僕らは、アメリカ産であれ、何であれ、穀物を食べている牛を使っていて、草を食べている牛はほとんど使わないです。バラ焼き1つとっても色々な考えが出てきます。この話はいいですけど、とにかく主軸・コンセプトを持つことが大切だと思います。

(委員) 様々なアイデアが出ていますが、役割分担していくことも出てくると思いますので、民間の商工業も取り込んでいただければと思います。

(委員) PTAの立場としてですが、色々参加できる方、活躍できる方は少ないと思います。町内会がたくさんあるといっても、会長から上の三役ばかり動いていて、100世帯ほどあったとしても、参加するのは20人くらいです。清掃活動は参加しますが。現役世代が参加するのは難しいので、そこを支度してあげればいいと思います。PTAも、役所の方に積極的に参加していただければと思います。コミュニティに関しては、同じメンバーが色々なことをやっていて、忙しくなって、遠慮して参加しなくなるということを考える必要があると思います。また、教育に関しては、小中のレベルは高いですが、高校になるとよくないというのが新聞にありましたけど、落ちこぼれをつくらない、全体を底上げしなければならないと思います。極端な話では、私立では優秀な人を出して、全体を底上げしていくなどあります。例えば、北里大学で私立高校を設立するなどです。市内の高校に通うには、交通費はそれほどかからないけど、三沢や八戸に行くにはかかりますし、私立高校は八戸

にしかありません。ぜひ、十和田に私立高校があれば住みやすいまちになるのではと思いますので、考慮していただければと思います。

(委員) 私自身、転勤で各地を回っていますが、弘前市では街コンが開催されて、男女1000人が集まり、その中には若者だけでなく、80歳や90歳の高齢者が参加していて、カップルも誕生しました。参考にいただければと思います。また、金融機関としては、県内の成功事例と失敗事例がありますが、成功事例を提案していきたいと思っております。

(委員) 人口減少を止めるにはつまるどころ、雇用が重要だと思いますが、雇用創出グループの提案資料の十和田湖・奥入瀬溪流の評価は手前味噌が過ぎる印象です。厳しい見方からはじめて、考え出す必要があるのかなと思います。

(委員) 自己統制型はいけないと思いました。全国や世界の人がどう評価するかが大切だと思います。首都圏のセミナーで野村総研の方が言っていましたが、バラ焼きを現地で3回食べたことがあるけど、美味しくなかったと言っていました。そして、地元の人も普段は食べないと聞いたと。確かにそうです。でも、バラゼミの活動は素晴らしいと言っていました。この評価がとても大事だと私は思います。つまり、他から見たときにどうなのかを、私たちがキャッチして、アピールする考えは、60歳過ぎた私たちには難しいかもしれませんが、ワーキンググループの若いメンバーを見て、十和田市は面白いと私は思いました。このような方々がどんどんキャッチして、市民にアピールして、短所や長所を戦略にしていけばいいと思います。また、私は農家出身ですので、繁殖をテーマにしたことは素晴らしいと思いました。私自身やってきて気付かなかったことでした。気付かせてくれることが大事で、売りになると野村総研の方も言っていました。ですので、例えば、地元の人が美味しいと思わなくても全国をだませると言ったら申し訳ないですけど、そう思いました。

(地域支援室) 十和田市の総合戦略の構築の方法として、市民アイデアやワーキンググループの意見などを取り入れ、オール十和田で積み上げていくことで戦略を作っていくのかなと思っております。様々な方法がございますけど、これが十和田市のやり方ということで、理解したいと思いました。いずれにしましても、人口ビジョンの目標に至るまで、総合戦略の個別事業は必ず因果関係が問われますので、理論武装して対応していただきたいと思います。各グループの意見について、感じたことを述べさせていただきたいと思います。雇用創出グループについては、連携ということで、産業間連携についてありましたが、産官学金労言を取り入れたもう少し大きな連携が必要ではないかと感じます。特に「学」について、北里大学がありますが、昨日、大村先生がノーベル賞をいただきましたが、この視点が必要ではないかと思っております。次に、

移住・定住促進、少子化対策、地域づくりの各グループに共通して関係してくるのですが、十和田市はセーフコミュニティを宣言しておりますので、この辺の知見と言いますか、言葉がなかったことが疑問にありましたので、検討されてみてはと思います。農業に関しては、移住・定住促進グループが畜産に特化した形で、地域づくりグループでは農業全般という形で、この視点をふまえていただければと思います。最後に、総合戦略については、管内の3市町村でお手伝いさせていただいておりますが、広域連携の視点ということで、この視点をふまえていただければと思います。これからすぐに盛り込めるかはわかりませんが、長いスパンとなりますし、上十三定住自立圏との絡みもありますので、広域連携の取組みの必要性を多少なりとも研究・検討していただければと思います。

(委員長) 皆様からご意見をいただきまして、次の案件に入る前に、ワーキンググループでは、若い方々が来られて、十和田市としても若手育成など色々考えておられると感じました。一方で、色々な方からご意見があったように、視野を広げる必要があるのではないかと思います。十和田湖・奥入瀬溪流の年間観光客数が100万人とありましたが、私たちが若いころは300万人で3分の1に減っています。子供の支援については、横浜市ではないですが、待機児童や出産の問題などがあり、良好とはいえない状況にあるということを認識していただきたいと思います。それでは、次の案件について、事務局よりお願いします。

【事務局から案件（2）アイデア等を踏まえた意見交換について説明】

(省略)

【質疑応答】

なし

【事務局から参考資料及び今後のスケジュール等についてについて説明】

(省略)

【質疑応答】

(委員) 次回はどのような内容になるのでしょうか。

(事務局) 市民アイデア、十和田市提案事業、ワーキンググループ提案、それらの中から、重点的な事業、総合戦略として実施すべき事業を、事務局で取りまとめの上、素案をたたき台として皆様にお示ししたいと思います。すべての提

案が入るわけではありません。十和田市担当課に照会をして効果等を検証し、実施するものについては実施していくこととします。次回は、人口ビジョンと総合戦略を含めて、皆様に素案をお示しし、ご検討いただくことにしたいと思っております。

(委員) 会議の議事録は作成されているのでしょうか。

(事務局) 会議の議事録は後日、公表したいと思います。個人名を出さない形での公表になるかと思えます。

(委員) 私の分については出しても構いません。委員としても名前が公表されていますし、だれが何を発言したという責任は取らなければと思います。特に第1回の会議の際の誰も責任をとらないということについては、きちんと議事録に載せていただきたいと思えます。

(事務局) わかりました。

(委員長) 参考資料の十和田市の滞在人口については、市外から来たということですか。

(事務局) 滞在人口については、十和田市民も含まれます。このデータはスマートフォンのGPSのログから作っているそうですので、十和田市民が滞在の割合が多いのは当然の結果だと思います。

(委員長) つまり、3ページ目の滞在人口から十和田市の人口を引けば、市外から来た人数になるということですね。

(事務局) そうです。

【閉会】